

知多半島医療圏における災害医療対策について

1 平成 28 年度災害時における透析患者対策に係る研修会

(1) 概要

- 日時：平成 28 年 11 月 15 日（火）午後 2 時から午後 4 時まで
- 場所：半田保健所 4 階 大会議室
- 出席者
 - ・ 田中、有木地域災害医療コーディネーター
 - ・ 水野地域災害医療コーディネーターは急患のため欠席
 - ・ 透析医療機関及び市町災害医療担当者 始め 57 名

(2) 内容

- ① 講演「血液透析患者と災害対策」
講師：藤田保健衛生大学腎内科講師 小出滋久氏
- ② 報告「アンケート集計結果」（調査結果より抜粋）
発災時における透析患者への対応
 - ・ 医療機関：透析患者は各避難所に避難し、自分は「透析患者」であることを（市町に）伝えて支援を依頼
 - ・ 市 町：避難所に透析を求めてきた透析患者に対する対応は決めている。
- ③ グループワーク「災害時の対応」
災害時に共働が必要となる市町とその地域にある透析医療機関が、同じ机を囲んで演習を行った。

(3) 主な感想等

- 血液透析の治療 1 回に必要な水が 120～150 リットル必要であることを参加者で共通認識した。
- 行政の方と一緒に問題点と現状を認識できてよかった。（透析医療機関担当者）
- 災害医療対策マニュアルを作成中であるが、研修会に参加して自身の見通しの甘さを感じた。（透析医療機関担当者）
- 透析医療機関と顔合わせができ、透析医療機関の患者数と市町に住んでいる透析患者数が乖離していることがわかった。（市町担当者）

小出先生



田中地域災害医療
コーディネーター



有木地域災害医療
コーディネーター



水谷先生



半田市



常滑市



東海市



大府市



知多市



阿久比町



東浦町



南知多町・美浜町



武豊町



2 平成 28 年度知多半島医療圏災害医療部会

(1) 概要

- 日時：平成 29 年 1 月 27 日（金）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
- 場所：半田保健所 4 階 大会議室
- 出席者
 - ・ 田中、水野、有木地域災害医療コーディネーター
 - ・ 災害拠点病院、2 次救急病院等の院長
 - ・ 地区医療関係団体：地区医師会、地区歯科医師会、地区薬剤師会、愛知県看護協会の災害担当理事
 - ・ 関係行政機関：市町、消防機関、警察、県機関 始め 72 名

(2) 議事

- 知多半島医療圏医療救護活動の見直しについて
 - ① 各市町に広域災害救急医療情報システム（以下「EMIS」）の ID とパスワードが付与されたことを受けて、「救護所開設状況調査表」及び「避難所開設状況調査表」について言及し、これらの調査表を様式として追加
 - ② 医療機関の役割の項目に、病院、透析医療機関及び周産期医療機関の地図を追加
 - ③ 災害時における透析に係る研修会において、共通認識した内容を追記
 - ④ 知多半島医療圏内各市町の透析患者数の時点修正
知多半島医療圏には、合計約 1,347 人、人口 1 万人対比 21.7 人の透析患者がおり、昨年のデータと比べて変化はなかった。
- 今年度の取組み状況を報告[半田保健所]
 - ① 知多半島医療圏災害医療対策に係る研修会（平成 28 年 7 月 19 日）
 - ② 8.6 知多半島医療圏災害医療対策会議設置訓練（平成 28 年 8 月 6 日）
 - ③ 災害時における透析患者対策に係る研修会（平成 28 年 11 月 15 日）
 - ④ 知多半島医療圏 EMIS 机上訓練（平成 29 年 2 月 13 日）
- 知多半島医療圏災害連携会議（医療部会）の進捗状況について[半田市立半田病院]
半田市立半田病院では、知多半島医療圏内の 18 病院が、毎月第 2 月曜日、災害連携会議を開催している。今年度も、訓練を通じて検討を重ねてきたことを半田市立半田病院森田看護長から報告していただいた。

平成 28 年 9 月 12 日 EMIS 机上訓練



水野地域災害医療コーディネーター



○ 関係機関合同災害対策訓練の実施について（平成 28 年 9 月 1 日実施）[半田警察署]

半田警察署では、ただ救助するのではなく救助された方がどのように搬送されどのように手当を受けるか、又は救助されたにも関わらず残念ながらお亡くなりになった場合、どのように搬送されどのような手続きをして御遺族のもとにお返しするかについて、多くの関係機関の方と一緒に体験し確認することを目的に訓練を実施した。

その訓練状況について、半田警察署警備課鈴木災害対策係長から報告していただいた。



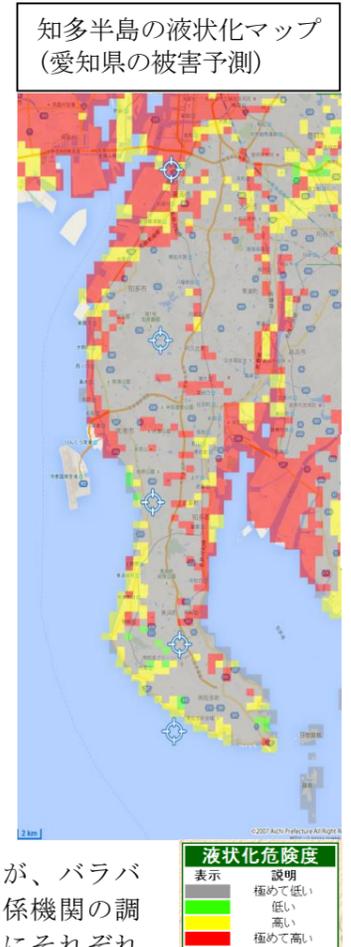
- 平成 29 年度大規模災害時医療活動訓練（案）について
南海トラフ地震が発生した場合、知多半島医療圏も周囲の医療圏を含め広範囲の地域で被害が発生する。その時、知多半島の中において、どう対応すべきか。
前線型 SCU の必要性を行政の体制に施策として考えていかなければならないということを提案させていただきたい。
前線型 SCU の設置の位置付けに結びつく訓練を平成 30 年 2 月の土曜日に、半田運動公園を会場として訓練を実施できないかと思うので、協力をお願いしたい。

(3) 災害医療コーディネーターからの助言

- 田中地域災害医療コーディネーター
各自治体の方々には、半田運動公園へ如何なるルートを通って如何にして運ぶかということから検討していただきたい。海岸の道路はおそらく浸水して通れないので別のルートを探さなければならない。その際には、警察、救急の方々のお力を得なければならない等々、訓練でそれぞれの問題点を洗い直していただいて、有意義なものにしていただきたい。
透析患者について、南海トラフ地震発災時には、傷病者を太平洋側の医療機関に運べないだろうから、日本海側に運ぶ段取りを考えて、県の協力を得ながら、どの県に送り、どの医療機関とタイアップしていくかということ発災前から考えておく必要があると思う。

- 水野地域災害医療コーディネーター
昨年 8 月 6 日の県災害医療調整本部運用訓練に私も参加したが、バラバラな感じを受けた。目的がはっきりしない状況の中で、市と関係機関の調整がうまくできていなかったということなので、是非この機会にそれぞれの連携を図った訓練ができると思うのでよろしくをお願いしたい。

- 有木地域災害医療コーディネーター
平成 29 年度には、半田運動公園に前線型 SCU を設立しての訓練が想定されている。
何事も一つのプランだけに頼っていると、もしそれが機能しなくなったときの対応が難しくなる。要するに、想定外、予想外ということになるが、半田運動公園での訓練を参考にし、例えば、知多北部の方で SCU に変わりうるものの設立という観点からもこの訓練を検証したいと思う。



3 今後の検討事項

南海トラフ地震（最大モデル陸側、津波 1 ケース）の被害予測では、知多半島医療圏は壊滅状態になることが予想されるため、以下について検討していかなければならない。

- ・ 発災後 3 日間は各医療機関、各市町において自力で持ち堪える体制の検討
- ・ 災害時の医療対策がスムーズに行えるよう、軽症者は救護所又は診療所で、治療を終えて医療の必要のない方は避難所等で対応し、病院は重傷者のみを受け入れることとする体制の構築
- ・ 透析患者等災害時要配慮者対策
- ・ 重症患者搬送時の手段及び経路等の検討
- ・ 災害拠点病院の機能が停止したときの対応